



令和三年度奨学生四十八人内定 大学院奨学生五人も

伊藤青少年育成奨学会(公益財団法人、田代久美子理事長)は、コロナ禍に頑張る学生やその家庭を応援するため、令和三年度大学奨学生(第二十二期生)として過去最多の四十八人、また、大学院奨学生は当奨学会奨学生からの進学者五人を内定しました。



令和三年度
大学奨学生
応募者総数は
九十八人で、
五十一人が指
定図書を読み
での小論文や
応募事由、高
等学校の推薦
状等による一
次選考(書面
審査)を通過。
田代理事長と
三人の選考委
員(理事)によ

る面接(二次選考)に臨み、「それぞれに可能性を強く感じた」(長谷川佳子選考委員長)こともあり、田代理事長の「コロナ禍に頑張る若者を積極的に応援して行きたい」との思いもあつて、四十八人を奨学生に内定し、三月二十三日の理事会で承認されました。

内定者の中には、岐阜高等専門学校を卒業して名古屋工業
大学三年に編入するという初のケースがあり、また「コロナ禍
だからか、医療、看護関係部門への進学者が多くみられます」。

なお、今期の小論文指定図書は大学奨学生が川上和人著
『鳥類学者 無謀にも恐竜を語る』(新潮文庫)、大学院奨学
生が永田和宏著『知の体力』(新潮文庫)でした。

伊藤青少年育成奨学会は平成十年(一九九九年)、学術、ス

ポーツの各分野で、次世代を担う青少年の夢を育むこ
とを目的に、(株)パロー(現(株)パローホールディングス)創
業者故伊藤善美氏により寄贈された個人資産を基本財
産として設立され、翌平成十二年度から大学奨学生に対
し、奨学金の給付事業をスタートさせました。奨学金は
月額三万円(年間三十六万円)の給付型で、初年度の第
一期奨学生は十七人。以降、令和二年度までの二十一年間合
計の大学奨学生は五百九十三人に達しています。



屋根葺き工事の進む「漱玉館」

令和 3年度 スポーツ・地域振興 助成事業募集



あなたの夢を応援します

令和三年度 スポーツ・地域振興助成事業の 応募を募集

伊藤青少年育成奨学会は、令和三年度スポーツ・地域振興
助成事業の応募を四月二十日まで募集している。

当奨学会は平成十年の設立で、次年度から大学生への奨
学金の給付と共に、高等学校のスポーツ、文科系クラブ活動へ
の助成や、地域活性化のための活動を企画実施する団体への
助成を行ってきた。

助成事業においては、文化、スポーツ、武道、歴史、芸術、学
術、教育及び国際交流・多文化理解等の各分野において、青少
年の健全育成または地域社会の活性化を目的とする活動に
対し、経済的援助を行うもの。令和二年度においては、「コロナ
禍により休止せざるを得なかった同業だが、三年度は実施
の方向で準備を進めている。



故・李登輝 台湾元総統

追悼特別企画

令和二年七月三十日、台湾の李登輝元総統が亡くなられました(享年九十七歳)。李登輝先生は中華民国体制からの脱却をめざす「静かなる革命」を推し進め、台湾を民主化に導きました。台湾では「台湾民主化の父」として深く尊敬され、私どもに対しても「日本人よ、もっと自信を持ちなさい」と常に励ましていただいた大切な方でした。また李登輝先生は晩年、「我は不是我的我(私は私でない私)」という境地に達し、何人にも公に生きるこの大切さを説き、哲人政治家と称されました。(産経新聞より)

『李登輝さんへの手紙』

伊藤青少年育成奨学会

理事長 田代久美子

李登輝さんを知ったのは、司馬遼太郎の「街道をゆくー台湾紀行」であった。その内容はそれまでの私の歴史観をひっくり返すような驚きに満ちたものだった。いわゆる自虐史観のなかで東アジア、東南アジアには贖罪の意識のみ、同時にギリシヤローマを起源とする文明文化を世界の物差しとする風潮のなかで育ったからである。

李登輝さんが台湾総統になってからは、いさよとして少しずつ日本統治時代を生きた台湾の人々が発言し始め、本も出版され始めた。そんなことも司馬遼太郎の台湾紀行で初めて知り、台湾関係の本を手あたり次第読み始めた。そんな折も折、金美齢さんの講演が私の地元で有り、それに先立つての紹介文の「こ

ストライターを頼まれる。その紹介文を気に入ってくださったことから金美齢さんとの縁ができ、李登輝さんにつながる。ひとこと付け加えるならば、その会は金美齢さんを政治的論客として知名度のみで招聘。年配者もふくめて誰も台湾の昨今を知らなかったため、私に紹介文のお鉢がまわってきたというわけである。それがその頃の日本の現実であった。

李登輝さんの生涯を簡単に要約しておこう。

「私は二十二歳まで日本人だった」というのが日本人との会話の口癖だった李登輝さんは、大正十二年台北の生まれ。旧制台北高校から京都帝国大学へ進学、農業経済学を学ぶが学徒出陣で繰り上げ卒業。初年兵教育は本籍地であるというところで台湾出身者ばかりで台湾に送られるが、その輸送船の段取りに時間がかかり、戦地に行くことなく名古屋で陸軍少尉見習士官として終戦を迎える。

戦後、台湾大学に編入学。二度にわたるアメリカ留学、論文発表幾多。その農業経済学者としての声望が高まりつつあるところを、蒋介石の息子蔣経国に見いだされて一九七二年国民党に入党する。蒋介石以下大陸出身者が大半の国民党ではあるが、本人いわく「好き嫌いや拒絶などできる時代ではなかった。それから当時、台湾の農民は政府からの搾取で疲弊しきついで農村人口も減少していた。だから農民が息を吹き返すような形を持っていかねばならない」とは切実に考えていた。

蔣経国の「加速農村建設計画」「労働者の職業訓練計画」「石油化学発展計画」などに片腕として働くなかで、学者的知識と政治的実践のギャップを埋め

るべく手腕を磨いていく。蔣経国が総統に就任した一九七八年から、李登輝さんは三年半台北市長として働く。この時の実務能力と先見性、リーダーとしての成功をもって一九八四年から副総統となり、八八年蔣経国の突然の病死によって総統代理の座に就いた。そして初めての台湾人総統になった。

蔣経国にも少し触れておく。蒋介石の第二子(一九〇〇〜一九八八)。十五歳からモスクワ留学、モスクワ中山大学卒。その時期共産主義トロツキ一派として活動。工場、農村でも働く。台湾第三代総統(一九七八年〜一九八八年)。晩年「わたしは台湾人である」と、大陸との精神的決別を表明。一九四九年から三十八年間続いた戒厳令を解く。総統時代台湾民主化に腐心、しかし彼を取り巻く旧勢力の渦中でなかなか成果を出せず終わった。

二〇〇〇年に李登輝さんは総統を退任。自由な身の一般人となり、日本訪問を希望する。しかし親中政治家や外務省 China School の中国への忖度からビザは発給されない。翌年森喜朗首相が決断、心臓病治療の名目で地域限定ではあるが訪日を実現させる。そんな情勢の中、「李登輝さんの日台運命共同体理念に賛同し、新しい日台関係を構築する」ということで「李登輝友の会」が結成される。その会主催の台湾旅行を金美齢さんに教えられ参加。即ちそのツアー名が「李登輝学校」だったのだが、私にとっては「台湾紀行」をなぞるのが目的の旅だった。九六年に亡くなった司馬遼太郎を偲ぶ旅でもあり、あくまで Nonpolitical である。

しかし二度三度と参加するなかで人脈が生まれ、「李登輝友の会 泉支部」の役員を夫婦で依頼される。その理由が「皆中国に気兼ねし、仕事に不都合が出たら困る」ということで引受け手がない」という。李登輝さん訪日の件といい、これといい、日本人はいくつの間にこのように情けない人種に成り下がってし

まったのか。因にウチも中国との関係はあるが、彼らは大人であり、なによりリアリストである。何かのきっかけでそれらが外交カードとして使われることがあったとしても、李登輝さんの人間性を尊敬しているという心根を語れば済むことである。

「李登輝友の会」とは別の組織の話だが、留学生支援の再検討が進められていた。そこで李登輝さんとの縁ができたのをさいわい、李登輝推薦、日本の身元引受人金美齢といふことで台湾留学生の審査はどうやっても表面的にならざるを得ない。従って、途中で留学生が行方不明になったり、後でよからぬことが分かったり。李登輝さん推薦となれば保証も別格である。われわれのほうも手間が格段に楽になり、李登輝さん、金美齢さんにも、そしてなにより対象留学生に喜んでもらったのがあった。

以下「李登輝学校の教え(李登輝×小林よしのり対談集要約)」より。

私は日本人として非常に正統な日本教育を受けた。私の人生に一番影響を与えたのは日本時代の教育だったんです。日本の思想、伝統、文化といったものの影響は、私の中では非常に大きい。『古事記』を読み、本居宣長の『玉勝間』を紐解き、『源氏物語』や『枕草子』『平家物語』に至るまで岩波文庫なども読み漁って当時七〇冊以上は持っていました。西田幾多郎、和辻哲郎、夏目漱石、倉田百三の『出家とその弟子』などは熟読しました。その中に出てくる親鸞和尚の「すべてが、よかつた」という境地に大変感銘を受けて親鸞和尚が大好きだった。ゲーテの『ファウスト』、カールライルの『サーター・リザータス(邦題「衣装哲学」)。新渡戸稲造の講義録を読んで、いかにも難解なカールライルを読み解くことができた。そ

れがきっかけで『武士道』を読んだのです。日本人ならばぜひお読みなさい。日本人の精神的支柱が何であるか非常によく理解できる。私は日本語で思索します。

李登輝著「武士道解題」は日本人必読の書である。

『李登輝さんとの邂逅』 台湾の二二

李登輝さんの本当の凄さは、蔣経国の突然の逝去から総代理になった時。当時、蔣家、国民党、軍という強大な三位体の勢力のなかで彼は孤立無援であった。特に軍を私物化していた参謀総長の郝伯村は「自分がある限り十五年は好きにさせない」とぞぶいた。総代理の任期は一年半。国民党と軍を切り離すため、郝伯村を国防部長、行政院長（首相）と出世させ、権限上彼を軍から引き離す。これは位打ちという政治的手法だと司馬遼太郎の著書で読んだ記憶がある。また戦時下の特例法に守られ、二十五年間議員に居座り続ける六百名の家に出向き、李登輝さんは経済農業政策などの自分の論文を手渡しながら総統選の支持を説得してまわった。



そして一九九六年台湾総統直接選挙が初めて実現した。その選挙直前に中国は台湾近海にミサイルを発射し威嚇して来たが、「怖がることはない、シナリオは準備してある」と李登輝さんは民心の動揺を抑え、とうとう台湾人の総統が誕生した。その力を背景に、戦時下という建前での「特例法」を廃止する。特例法を根拠にした万年議員に辞職を勧告し、万年国会も解消した。しかしそれは総統選挙で自分への支持を説得してまわった議員に辞任を勧告することであった。その六百名のなかには寝たきりで担架で登壇するものもいたとはいえ、これは本当に辛かったと李登輝さんは回想する。

彼を支えたのは私心なく公に尽くす精神。千載一遇のその機会を逃せば台湾の民主化は実現できないと、自我を排し客観的に解決策を考え、冷静に強固な意志で遂行した。それらのこと、勤勉、責任感も日本の教育で学んだという。李登輝さんいわく「かわいそうなのは、日本の若者は『昔の日本は悪いことをした、悪い国だった』と方的に教育を受けている」。現在の台湾ではもう使われていない言葉かもしれないが、二十年前の本には面白い記述があった。

台湾における「日本精神」という言葉は「勤勉で正直で約束を守る」と言う意味なのだそうだ。掛け値なしというのも「日本精神」、機械がきちんとして動くのも「日本精神」、住宅が手抜きなく丁寧に建てられているというのも「日本精神」。「大丈夫?」「日本精神!」そんな掛け合い漫才のような具合で簡便に「日本精神」が使われているというのである。

また名古屋在住の台湾人の医者。昭和三十年くらいに生まれて、日本政府の奨学生として名古屋大学医学部に学び、その近くで開業している。彼に、何故留学先に日本を選んだのかと聞いたことがある。彼は「すこし伝法に『日本が戦争に負けたからいけないんだ。負けなければ僕は日本人だから(当たり前だろ)』。そんなことを聞いてくる無神経さに軽く

苛立っているように見えた。かつては日本人だったのを忘れたのかという文脈に心底驚いた。

もうひとつ自称愛日家蔡焜燦さん著「台湾」と日本精神」(二〇〇〇年出版)から。

吳健堂氏は台湾人としてただひとり菊池寛賞を受賞。医学博士、剣道八段というもののふ。「台北歌壇」を主宰し、台湾の地に永く日本の「短歌」を残そうと尽力した。その二首「万葉の流れこの地に留めむと生命のかぎり短歌よみゆかむ」。孤蓬万里という雅号での篇著「台湾万葉集」は日本でも集英社から刊行され、美智子皇后陛下に献上された。そして平成八年吳健堂氏は宮中歌会始に招かれる。「宮中の歌会始に招かれて日本皇室の重きを思ふ」。

俳句では台湾女流の二句「平成の美智子皇后お夏瘦せ」。

また私なぞ蔡焜燦さんから、復刻自費出版したという戦前の教育勅語をもらってしまった。日本の統治時代に残したものを考えさせられると同時に、戦前の良き日本は台湾に残っているとされるのもむべなるかな。しかし戦前の日本の教育を受けた人々はほぼ故人になつてしまった。良き日本も彼等と共に去つてしまったのかも知れない。

良い機会なので書いておきたいことがある。台湾旅行ガイドの郭美華さんのこと。美華さんには三回ガイドをしてもらった。その最後「日本人が作った遺構を見る」というミニツアーに参加することで、なかなか行けない台東台南地区を列車で回った。列車の旅の無聊を慰めるためか、美華さんが長い身の上話をしてくれた。

美華さんにはダイスケ(手)を聞き流していたという

兄さんがいる美華さんの父親と親友の日本人との約束で、子供が生まれたらダイスケ、美華という台湾語日本語両方に通用する名前を付けようと決めていた。

終戦を迎え親友は去り、大陸から蒋介石の国民党がやってくる。ある日美華さんのお祖父さんが国民党政府に呼び出され、そのまま行方不明になった。農地も没収され、家は二気に貧しくなった。そんな戒厳令下でダイスケ、美華兄妹は生まれ(美華さんは昭和四十年生まれくらい)、無気力に育った。

蔣経国の時代になり、台湾独立を標榜する民進党が結成され、民進党の陳水扁が台北市長に立候補する。男友達はその立候補の演説を聞きに行こうと美華さんを誘う。まったく興味はなかったが、その会場は新装なったサッカースタジアム。それを見るのも興とつて行き、陳水扁の演説を聞くともなく聞いてみると、心臓をわしづかみにされたようになり涙が流れはじめた。陳水扁とともに台湾独立のために戦いたいと思った。初めての感情だった。

台北市長選の日、日本人のツアーの仕事が入っていて選挙に行くことができない。ガイドをしていても涙が流れる。日本人のお客に子細をたずねられ話を言つと、「選挙に行きなさい」とツアーのバスで選挙会場の近くまで行ってくれた。それは本当は職務違反でありガイドの資格を剥奪される行為なのだが、「絶対誰にも言わないから安心しなさい」と日本人は口々に言った。日本人はやさしかった。そして陳水扁は台北市長になり、その後台湾総統になる。美華さんは兵籍を登録してあり、困難が起こった時には召集があるという。「わたし国のためにたたかうよ。いのちおしくないよ」とぼそぼそと語るのだった。

この職務違反はもう時効だろうと思う、そのときの冷房の効きすぎた列車と、美華さんの白く細い手足を思い出しながら書き記しておく。

卒業生の声

十一月報告書より

「自分らしく生きる」ために必要な支援ができる医師を目指して

岐阜大学 医学部医学科 六年生

田端 みずほ (たばた みずほ)

平素より多大なるご支援をいただきましてありがとうございます。

六年の長い月日にわたり、奨学金を頂いた御恩を忘れず、今後、医師として、社会に貢献していけるよう努力を続けていきたいと、強く思います。

様々な出会いの中、人は人によって支えられ成長していくという事を強く実感する六年でした。生まれ育った高山を離れ、夢と希望を胸に抱きながら岐阜大学医学科に入学しました。しかし、慣れない環境になかなか馴染めず、何度も退学を考えたことを思い出します。そのような中、私が始めたのはボランティアと学生研究員でした。

ボランティアでは、ホームレスの人や障害者、子供等、様々な人との触れ合いを通して、同じ人間として自分が受け入れられ、私の言葉や行動で笑顔になってくれる人がいることを実感し、私の存在を認められているという気持ちになりました。

また、学生研究員では、年に一回、学会等で研究成果を発表する機会がありました。多くの大学の先生方の前でプレゼンテーションを行った経験は、私の自信になっています。研究の指導をしてくださった先生方に心から感謝しています。

四年生からは病院での実習が始まりました。患者さんから実際に得た学びを大切に、今後しっかりと生かしていきたいと考えています。

卒後は岐阜県内の病院で初期研修医として三年間働くこととなります。初期研修では、内科、外科、小児科等様々な科をまわり研修します。私は以前から精神科を志していますが、内科や外科の知識と

最低限の手法はしっかりと身につける必要があると考えています。二年間はそこで大変重要な期間だと考えるので、幅広く精力的に研修を行っていきます。

また、学生の時から行ってきたボランティアを継続し、人とのつながりを大切にしていきたいと考えています。

私の目指す医師とは、「患者が自分らしく生きる」ために患者に必要な支援や治療を考えられる医師です。また、精神科においては、家族への支援や地域への働きかけが大切だと考えています。精神科に対する偏見はまだまだ根深く、患者や家族自身が偏見を持っていることも多いと思います。また、依存症といった病気は、自己責任ととらえられ、周り

から非難されてしまいます。偏見やしがらみといったものを少しずつ解消し、精神疾患を持つ人が地域の中で安心して自分らしく生活できるよう力を尽くしたいと考えています。

支えてくださった多くの方々に感謝の気持ちをもち、国家試験に向け、勉強に励んでいきます。

地元恵那市で恩返しを

都留文科大学 文学部英文学部 四年生

鶴飼 大輔 (つかくい だいすけ)

私は就職活動を進めるなかで、地元恵那市で働きたいと考えるようになりました。なぜなら、四年間大学生活を山梨で過ごし、恵那のあたたかさや気づきました。そして、支えてもらった多くの人に恩返ししたいと考えています。恵那には家族や友人との多くのつながりがあり、そういったのもも大切にしていきたいです。更に、伊藤奨学会のような地元の方の力のおかげで大学で勉強ができています。

このような思いから恵那市で働くことを志望しました(※恵那消防署に内定)。消防士になった際には、地元恵那の人や財産を守っていただけるような人材になりたいです。私は大学で、英文学科として、英語比較文化を勉強してきたので、そういった点で海外の観光客の方、恵那に住んでいる外国人の方などにも関わりを持ち、多くの方から信頼される消防士になりたいと考えています。

また、進路が確定していませんが、どの道に進んでもこれまで学んできたことを生かし頑張りたいと考えています。

自立入

滋賀県立大学人間文化学部国際コミュニケーション学科四年生

坂口 優佳 (さかぐち ゆうか)

昨年度は休学しており、生活費や東京での就職活動それに関わる交通費等を稼ぐため、アルバイトで販売スタッフとしてフルタイムでのアルバイトをしていました。

卒業のための単位はゼミ活動と卒業論文での獲得分を除いて修得済みで、現在はゼミだけとっているので、週に一度しか学校に通っていません。よって、学校のない日は、昨年度から続けているアルバイトを、卒業論文の執筆や調査、先行研究の読み進めと兼ね合いながらしています。元々、卒業旅行や、学生のうちの今を使った旅行のために貯金をしようと思っていたのですが、コロナウイルスの影響で叶えられそうにないため、今は働いたお金は四月からの社会人生活に必要な資金や引越しかかるお金のための貯金にしよう、計画を変更しました。

また、社会人になってから、アルバイトでも良いスタートをきるために、今のうちに新たにアコースティックギターを独学で始め、今月からはヨガのスタジオに通いはじめました。残りの学生生活はもちろん、社会人になってからも、プライベートの時間を有効に使い、心身共に健康な状態を保つためです。

これまで比べ、旅行に行ったり、友人に会ったりすることが気軽にできなくなりました。改めて自分にとってのことや必要なことが、何が必要なのか、どうしたいのかを、じっくり考えることができている。自然環境やサステイナブルに対して、自分の中の興味が湧いていて、今一度自分の身の回りのモノについて見直したり、消費活動に変化もあり、環境に関するセミナーに参加したりしました。将来の自分の基盤を作っている感じがします。



患者さんが安心してできる環境を

広島大学 保健福祉学部理学療法学科 四年生

中島 千尋（なかじま ちひろ）

患者さんやご家族のことを考えられる理学療法士になりたいと考えています。患者さんのことを考えるのは、理学療法士として働く中で、重要だと思えます。その気持ちが前提としてないと、より良い治療を考えることがつながらないと思うからです。患者さんが今後どうになりたいのか、何ができるようになりたいのかを聞き、それをふまえたうえで最善のリハビリが行える理学療法士になりたいと思っています。また、このように患者さんの少し先の未来を考えると、ただでなく、目の前の治療中の時にも患者さんを気遣えるようになりたいと思います。



例えば、関節可動域訓練で、患者さんの手足を理学療法士が動かそうとして、急に動かしてしまふと患者さんが驚いてしまい、筋が収縮し思っ

たような動きができない時があります。関節可動域訓練で、関節可動域の維持改善が目的のため、筋が収縮してしまふと、最終可動域まで動かす前に運動が妨げられてしまいます。そうならないよう、動かす前に、今からどの方向に動かすかを伝え、ゆっくり動かすことで、より良い運動ができ、患者さんも安心してリハビリを行えると思います。ご家族に対しても、意向を聴取して介護が必要になった場合の介護量について等を、ご家族に寄り添った支援を行いたいと考えています。

コロナの中、卒業試験を乗り越えて

自治医科大学 医学部 六年生

佐藤 千成（さとう ちなり）

つい先日、ようやく全ての卒業試験が修了しました。自治医科大学では、循環器内科呼吸器内科といった内科系診療科や、小児科・産婦人科といった診療科々さらには麻酔科放射線科といった特殊な診療科まで、病院に存在する全ての診療科それぞれが、個別に試験問題を作成するという卒業試験の形態を取っている。

そのため、試験科目はのべ五十科目、二十六診療科にも及び、八月下旬から十月上旬にかけて、試験準備期間を含めて約三カ月間にも及び長丁場となった。そのうちの二つでも落としてしまえば留年となり、国家試験に挑むことができなくなるため、体力的にも精神的にもとても辛い三カ月だった。

何より一番辛かったのが、コロナウイルスの関係で四月中旬から八月の頭まで休校となったことだった。六年生は、勉強会室と呼ばれる部屋を寮の中に与えられる決まりとなっており、自分たちで組んだ小人数のグループでそこを利用し、分からない点を教え合い、辛い時には励まし合いながら共に最後の一年間を戦い抜く、というのが例年の様子だった。しかし今年は、休校となった上に全学生が実家へと強制的に帰省させられた関係で、顔を合わせて皆

で勉強するということができず、自分の勉強のやり方は本当に正しいのか、皆と比べて勉強のペースが遅れていたりはしないかなど、自分の現在の位置が全く分からない状態での自主学習となり、今、こうして学校が再開して、勉強会室が利用できることへのありがたさを身をもって実感している。

医師国家試験まで残り三カ月を切ったが、これからは気を緩めず、そして何より心が折れてしまわないように、毎日地道に努力を積み重ねていきたいと思う。

就職先 中濃厚生病院（関市）

シリーズ 第31回

この本をあなたにも薦めたい

伊藤青少年育成奨学会 事務局長 加納 志貴

『白村江』

著：荒山徹（あらやまとおる）
発行：令和二年一月 朝PHP研究所

これこそ政治

六六三年（天智天皇二）八月、新羅により滅亡した百済の復興を計り、王子余豊璋（よほうしよ）を擁し、これを支援する形で倭国が出兵。時の斉明天皇は、皇太子中大兄皇子（後の天智天皇）を従えて西下。北九州に本営を置くと陣中に没す。中大兄皇子が執政して大軍を派遣したが、朝鮮西部の錦江（きんこう）河口白村江で、唐新羅の連合軍に大敗を喫した。

日本の歴史書に載る「白村江の戦い」の顛末（てんまつ）である。

ところが、新羅の国史書「三国史記」には、この戦いの記述がない。

中国の正史「旧唐書」と「新唐書」にも、「本記」にはなく、わずかに唐水軍の將劉仁軌の手柄話を「列伝」に載せるのみという。

とまれ、倭軍の大敗により国家再興の望

みを絶たれた多くの百済官人や人々が倭に逃れてきた。倭国は、祖国を失った哀れな百済難民に救いの手を差し伸べ、寛大に受け容れた形で、律令国家の実務に習熟した優秀な官僚を採り採用する。旧来の慣習に固執して改革の足かせとなっている豪族どもを刺激し、改革を促進する。そのために、百済には滅んでもいつか「つまるどころ、白村江の戦いとは人さらい戦争なのだ。」

五年後、「近江令」が制定される。これこそ政治であろう。

政治は結果で評価される。結果が悪ければ評価に値しない。為政者は責任をとりねばならない。説明責任、などという不可思議な言い訳は不要である。

、分りやすい政治、などあり得ない。自らが考え、答え合わせするよりない。



トピックス

NPO法人の設立に尽力

愛知大学 地域政策学部地域政策学科 一年生

安藤 美咲（あんど みさき）

「コロナで遠出ができなかったため、空いた時間や休日の大半はNPOの活動に費やしました。工口マの栽培やミツバチの生態について学習するイベントの運営、蜂蜜の商品化、法人関係の手續きなど様々なことに取り組んで来ましたが、一番の成果は法人格を取得できたことだと思います。法人設立の申請に必要な書類を作る際は、何度も修正を受け苦戦したのですが、九月には「NPO法人」とはち」という団体名で認証されました。

今後は、クラウドファンディングや耕作放棄地の活用を通し、さらに事業を拡大していく予定です。

トライアスロンにも挑戦

日本福祉大学 社会福祉学部社会福祉学科 一年生

岸野 桜（きのの さくら）

現在は、強化指定部に指定されている水泳部に所属し、週五回大学で練習に励んでいます。来年度から新しく創部されるトライアスロン部への入部も検討しています。スイム、バイク、ランの耐久が重要となる競技のため、練習を今よりもさらに積み重ねていき、水泳部とトライアスロン部、どちらも結果を残せるように努力していきたいです。



「恵蜜 百花繚乱」

岐阜県立恵那農業高校の生徒が、恵那市で採蜜した蜂蜜を、堀養蜂園（瑞浪土岐町）、中部大学と協力して、二〇一八年に開発した商品。四月から七月までの期間に採取したさまざまな蜂の蜜が含まれるところから「百花蜜」という。

環境問題に取り組む

高崎経済大学 経済学部国際学科 三年生

長谷川 千晴（はせがわ ちはる）

今学期に学んだ社会問題の一つは、プラスチック問題についてです。二〇五〇年には海の中のプラスチックゴミの量が魚の量を超えることを知りました。また、私たちが住んでいる日本が全世界で一番ゴミを輸出していることを知り、この現状を何とかして変えなければならぬと感じています。小さな一歩ですが、私自身もゴミ拾いを定期的に行ったり、環境マーチに参加するなど、環境問題解決への取り組みを行っています。

様々な社会問題を学んでいく中で、環境問題、ジェンダー問題、畜産問題などの社会問題は全て繋がる部分があるのではないかと感じています。

今私がすべきことは問題の根底を知ること、そしてその情報を周りの人に伝えることだと考えています。全世界で様々な環境問題が起きており、その環境問題の原因を作ったのは私たち人間だから、問題を解決する責任も私たち人間にあると感じています。できることから少しずつ行動に移していきたいです。



岐阜県内で最年少の女性 消防団員として

南山大学 法学部法律学科 二年生

加納 未結（かのう みゆ）

部活動が思うようにできない中、何か社会に貢献できることはないかと考え、今年度から自分の住んでいる地域の消防団に加入し、車両の点検や訓練に参加しました。岐阜県では女性最年少の消防団員ということで、岐阜新聞社の方から取材を受けたり、岐阜放送でYouTubeの消防団の紹介のための動画撮影を行うなど、普段経験することのないような経験もしました。



消防団の活動は決して楽なものではなく、重いホースを持つなど、重労働な作業もあり大変です。また、火災が起きた時の消火訓練だけでなく、規律訓練というものもあり、礼の仕方や号令かけられたときの返事の仕方なども身につけなければなりません。覚えることがたくさんあり、苦労することも多々ありますが、これらから地域のために活動していきたいと思えます。



公益財団法人
伊藤青少年育成奨学会

〒507-0062 岐阜県多治見市大針町661番地の1
株式会社パローホールディングス本社内
※Eメールアドレス、電話番号はホームページでご確認ください。
<https://www.ito-zaidan.or.jp>



発行 公益財団法人
伊藤青少年育成奨学会
印刷 新日本印刷株式会社